

- 国連大学グローバル・セミナー 第33回湘南セッション開催
- UNU-IAS学生インタビュー (1)
- UNU-IAS学生インタビュー (2)
- インターン生が国連大学協力会にやってきました
- UNU-IAS 大学院入学式

国連大学グローバル・セミナー第33回湘南セッション



国連大学グローバル・セミナー第33回湘南セッションが8月29日から9月1日まで、神奈川にある湘南国際村センターで開催されました。約100名の参加者が集い、4日間にわたり講義やグループ討論等が行われました。

国連大学グローバル・セミナーは国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)とかながわ国際交流財団が開催する日英2ヶ国語を使用した宿泊型セミナーです。現代社会が直面しているテーマについて、日中は国内外の学識経験者、専門家、実務家による講義があり、一日の終わりに留学生を含む大学院、大学生世代の参加者がゼミ形式で集中して徹底討論をします。そして最終日には、学生によるグループ発表が行われます。参加者にとってこのセミナーは、視野を広げ、知識を深める絶好の機会です。

今年のテーマは「グローバル自由経済における国際機関の役割—国境を越えて移動する人々をめぐって」です。難民とは何か、人の移動とは何かなど、国際的な枠組みを学んだあと、市民社会や地方自治体から、難民サポートの現場で働く方々を講師に迎え、日本における難民サポートの現状に関する講義が行われました。さらに、現在話題であるEUに関連して、国連大学協力会の理事でもある慶應義塾大学名誉教授の田中俊郎先生が、「EUと国境」をテーマとした講義を行いました。講義後、参加者は積極的に質問をし、さらに夜遅くまで熱いグループ討論を行いました。



(議論をする参加者)

参加者の声

私は大学院生で、普段は自分の研究に没頭しています。ですが、今回のセミナーでは、自分より年下の大学生と交流する機会が多く、彼らの新しい視点に刺激を受けました。

「難民を集団と捉えずに、一人一人の個人として見る」という先生の言葉がとても新鮮でした。自分にとって新しい意見でしたので、難民問題に対する意識を変えてくれました。

私は大学3年生ですが、グループ討論で大学院生と同じグループになりました。その大学院生が自分の知らない専門知識を持っていたので、とても勉強になりました。

今回のグローバル・セミナーは、現在ニュースに多く取り上げられている難民移民問題に焦点を当てて、世界情勢に即していたので、非常によかったと思います。

特集 UNU-IAS学生インタビュー

国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)では、世界各国から学生が集い、地球規模課題の解決の為、日々勉強や研究に励んでいます。今回は、国連大学協力会インターン生の李聖美さん(早稲田大学政治経済学部3年)とチェ・イェジンさん(早稲田大学政治経済学部2年)が、jfscholarship奨学生であるUNU-IAS修士課程2年のThelmaさん(ジンバブエ)と博士課程2年のSherylさん(フィリピン)にUNU-IASでの研究と生活についてインタビューしました。



ジンバブエってどんな国？

アフリカ大陸の南部に位置する内陸国。首都はハラレ。亜熱帯性サバンナ気候で比較的温暖なジンバブエは、雄大な自然が多く残されている。英語やシヨナ語など、16もの言語が公用語として定められている。

大学卒業後、ジンバブエで研究補助員、地図製作員、Parks & Wildlife Management Authorityの研究員など、環境に関わる様々な仕事に就いていたThelma Tsungirirayi Mahachiさんですが、今はUNU-IAS修士課程2年の学生として、環境科学を専門とし、ジンバブエにおけるコミュニティガーデンについて研究をしています。

UNU-IASを進学先として選んだ理由

——広い視点から環境問題に取り組める
UNU-IASのカリキュラムを見て、ここでは環境マネジメントのみならず、エネルギー問題と食糧問題など、様々な視点から環境科学の勉強や研究ができる環境が揃っていることを知りました。これが、UNU-IASへの進学を決めた理由です。

研究テーマを選んだ理由

——コミュニティガーデンは食糧不足を解決するカギとなるのか？
気候変動や経済の脆弱化によって日々悪化する食糧不足問題を解決したい、それにより苦しんでいる人々を助けたい。そんな思いのもと、ジンバブエにおけるコミュニティガーデンを研究テーマとして選びました。コミュニティガーデンとは、地域住民が管理する公園、農園、庭の機能を持つ場所であり、母国ジンバブエではそのコミュニティガーデンの活用が進められています。

農作物が収穫でき、食糧不足問題の解決に繋がるほか、植物が増えることで都市環境が改善されることが期待されます。ですが、コミュニティガーデンは果たして本当に食糧不足問題の解決に繋がるのか、自分の研究を通して答えを見つけ出したいです。

国連大学修了後の進路

——進学して博士号を取りたい
国連大学修了後は、博士課程に進学し、自然保護地域の生態系が人々の暮らしにもたらす影響について研究したいと思います。ご存じのとおり、アフリカでは雄大な自然が多く残されています。そして多くの人々は自然保護地域の近くで生活しています。人と自然がどのように上手く共存しうるかについて研究したいです。博士号を取得した後は、国際機関で自然の保護などに関わる仕事に就きたいです。

例えば、自然保護に関わる部署がある国際連合食糧農業機関(FAO)や途上国の開発問題に取り組める国際連合開発計画(UNDP)などを候補として考えています。

国連大学協力会(jfUNU)のサポートについて

国連大学協力会の奨学金サポートには心から感謝しています。奨学金は生活費用をカバーできるので、とても助かります。また、このサポートは私たち奨学生だけが恩恵をうけるのではないと思います。長期的に見ると、私たちが学業を終えた後、母国に戻り、国連大学で学んだ知識や経験を社会に還元することで、きっとより多くの人にもその恩恵をうけるのだと思います。

聞き手: 李 聖美 (jfUNUインターン生)

国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)とは？

UNU-IASは国際連合大学(UNU)の研究所のひとつで、東京を拠点とする先導的な研究・教育機関です。大学院教育を通じて、学際的な理解と技術的スキルを備えた国際的なリーダーを育成しています。UNU-IASでは、日本やその他の国々の主要大学との緊密な協力のもと、修士・博士課程、ポストク・フェローシップ、短期コースを提供しています。



フィリピンってどんな国？

フィリピン共和国 (Republic of the Philippines) 通称フィリピンは、東南アジアに位置する共和制国家である。首都はマニラ。民族はマレー系が主体。ほかに中国系、スペイン系及びこれらとの混血並びに少数民族で構成されている。国語はフィリピン語、公用語はフィリピン語及び英語、その他に80前後の言語がある。ASEAN唯一のキリスト教国。国民の83%がカトリック、その他のキリスト教が10%、イスラム教は5%。

Sheryl Rose Cay REYES,

フィリピン国籍で、

現在UNU-IASの大学院博士プログラム

博士課程 サステイナビリティ学に在籍中。



Q: 研究テーマについて教えてください。

私は、主に土地の測量に役に立つリモートセンシング*やGIS*を専門としており、UNU-IASではこれらの技術を活用して生態系サービス*のマッピングについての研究を行っています。

母国のフィリピンは自然が豊かな国です。フィリピンの自然についての研究は主に沿岸地域を中心に行われている一方、森林の研究は遅れています。また、フィリピンは約7,100の島で成り立っているため、移動が困難であること、また各島の状況がそれぞれ異なることから、研究の際には、そこに住んでいる人も加わってもらうよう心がけています。

Q: 日本の生活には慣れましたか。

周りに店が沢山あるので買い物には困りません。また、最近英語の表記も多く、暮らし易いです。これから習うと思いますが、日本語で話すことは難しいです。日本には英語を話せる人があまりいなくてコミュニケーションがとても大変です。

Q: 奨学金は役立っていますか。

奨学金はとても役に立っています。お陰でアパートも持っているし、食べ物を買うこともできます。たまには節約して遊びに行くこともできます。奨学金はとても助けになりますし、アルバイトをする必要もありません。留学生である私にはとても役に立っています。

Q面白いと思う日本の文化は？

日本の文化の全てが素敵だと思いますが、道で神社が見つかったり、人々が浴衣や着物を着ているのを見て、とても良いと思いました。

また、花火大会は他の国でもあると思いますが、日本の花火大会に行った時、早めに行こうと思って始まる30分前に行きましたが、すでに人がいっぱい集まっていたので驚きました。

また、人々が家族で祭りに行ったり、とても仲が良いと思いました。日本人は個人主義で、コミュニティから離れていると思っていました。日本に来てみたら違うことが分かりました。

フィリピンを始め、世界の国々でも、技術の発展などにより昔のことを忘れて行くことが多くあるのではないかと思います。しかし、日本では昔の良さも残されていてとても良いと思います。

シェリルさんは、自然と人のバランスの良い開発するための研究をしています。彼女はまだ開発が進んでいない森林研究に注目しました。

シェリルさんは勉強で忙しい日々を過ごしていますが、奨学金のお陰で研究に専念することができます。また、母国と違う日本の生活に慣れるために頑張っています。

シェリルさんは、日本の文化が面白いと感じています。留学生の目線から見れば、日本では昔のノスタルジーが残っているそうです。シェリルさんをインタビューして、フィリピンの文化や日本の生活の面白い話を聞くことができました。また、同じ留学生として、母国から離れ、一人で外国で勉強するのがとても大変だということにも共感することができました。

聞き手: チェ イェジン (JFUNUインターン生)

専門用語解説

* リモートセンシング:

対象に接触せず、離れたところから探ること。遠隔探査。

* GIS: 地理情報システム

* 生態系サービス:

人類が生態系から得られる恵み。例えば、淡水、木材、気候のこと

— 国連大学協力会の奨学金制度 —

UJ Scholarship 賛助会員とは? 国連大学大学院在籍する学生の奨学助成に特化した支援制度。

・特別賛助会員

特定の一企業または個人の方々为国連大学の特定の学生の修学生生活をサポートする制度

・賛助会員A・B

数社または数人で学生をサポートをする制度

本法人への寄付金には、税制上の優遇措置が適用され、寄付者は所得税・法人税の控除が受けられます。また、個人の寄付については内閣府より税額控除制度の適用も認められております。詳しくは事務局までお尋ねください。

インターン生がやってきました！

早稲田大学インターンシップ・公認プログラムWINの派遣により、李聖美さん(政治経済学部3年)とチェ・イェジンさん(政治経済学部2年)が国連大学協力で二週間の研修を行いました。

研修生の2人は、メールマガジンや広報紙の作成などの広報業務と、国連大学グローバル・セミナー湘南セッションの運営補助を経験。

初めてのことはばかりで戸惑うことも多かったようですが、国連機関での業務を垣間見ることができ、またインタビューやセミナー運営の業務を通じて様々な国の人との交流を深め、実り多き二週間であったようです。

日本語と英語、母国語(李さんは中国語、チェさんは韓国語)の3ヶ国語を自在に操る二人。是非ここでの経験を今後幅広い活動に活かして欲しいと思います。お二人のさらなるご活躍を、協力会一同応援しています。



UNU-IAS 大学院プログラム入学式

国連大学サステナビリティ高等研究所大学院プログラム(UNU-IAS)の入学式及び国連大学短期集中講座の開講式が9月4日に国連大学5階エリザベス・ローズホールで行われました。19カ国から、総勢24名の学生が出席。民族衣装に身を包んだ学生たちは、これから始まるUNU-IASでの学生生活に心を躍らせていました。国連大学協力が事務局を務める国連大学同窓会代表幹事の杉村美紀氏(上智大学副学長)が来賓として招かれ、入学式終了後には学生たちへ向け、国連大学同窓会の紹介を行いました。学生たちは、UNU-IASでの勉強を通して「持続可能な社会」、「自然資本と生物多様性」、「地球環境の変化とレジリエンス」という3つのテーマの様々な課題に取り組みます。学生たちはサステナビリティに関わる諸問題について広い視点からの理解を得て、学際的な理解と技術的スキルを備えた国際的なリーダーとしての活躍が期待されます。



あなたも一緒に支援してみませんか？

国際分野で活躍する人になってほしい

企業見学
ツアー

日本での
生活

国連大学で学ぶ留学生に日本での生活を安心して送ってほしい

グローバル・
セミナー湘南

日本文化
体験

私たち「国連大学協力会 jFUNU」にご相談ください
ご連絡をお待ちしております

公益財団法人 国連大学協力会
〒150-8925 東京都渋谷区神宮前5-53-70
TEL 03-5467-1368 FAX 03-5467-1349
URL <http://www.jfunu.jp/> E-mail
jf@unu.edu

国連大学協力会

検索

